



SANKYO CONSTRUCTION

エコアクション21 環境経営レポート

令和4年度版：令和4年10月～令和5年9月

作成日：令和6年2月4日

企 業 理 念

【情熱を以て優秀な技術で社会に奉仕する】



【限りある資源は繰り返して使う】

三 共 建 設 株 式 会 社

<目 次>

1. 組織概要	
1-1 事業概要	1
1-2 事業内容	7
1-3 対象範囲	10
1-4 権限・役割一覧表	11
1-5 建設現場等の概要及び件数	12
2. 環境経営方針	16
3. 環境活動	
3-1 環境経営目標	17
3-2 環境経営計画及び取組・評価	20
3-3 環境経営目標 目標対実績と判定、評価	23
3-4 次年度よりの活動計画及び取組	25
3-5 温室効果ガス排出量の推移	27
4. 環境関連法規の遵守状況、訴訟等の有無	31
5. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示	30

1. 組織概要

1-1. 事業概要

- 1) 事業者名 三共建設株式会社
- 2) 代表者名 代表取締役 三橋 雅之
- 3) 創 業 1947年5月7日
- 4) 資本金 4,800万円
- 5) 社員構成 取締役 代表者他33名
- 6) 環境管理責任者 製造課長 吉田基次
- 7) 所在地

本社 〒807-0812
北九州市八幡西区洞南町2番1号
TEL 093-631-1764(代)
FAX 093-641-2451

アスファルト合材工場
〒807-0812
北九州市八幡西区洞南町2番1号
TEL 093-631-1767
FAX 093-631-1778

洞北センター
〒807-0811
北九州市八幡西区洞北町3番5号
TEL 093-601-3111
FAX 093-691-3961

黒崎センター
〒806-0001
北九州市八幡西区築地町16番25号
TEL 093-631-3888
FAX 093-631-8600

三菱ケミカル作業所
〒806-0004
北九州市八幡西区黒崎城石1番2号
TEL 093-621-6713
FAX 093-621-6740

8) ホームページ

<http://www.sankyo-road.co.jp>

<http://www.sankyoroad.com> (新HPに入替中)

9) E-メール

info-sankyo@sankyo-road.co.jp

10) 事業内訳

- ・ 特定建設業 福岡県知事 許可(特-24)第11186号
土木工事業、ほ装工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業
取得年月日 昭和48年6月22日(新規)
取得年月日 令和4年6月22日(更新)
有効期限 令和9年6月21日
- ・ 特定建設業 福岡県知事 許可(特-2)第11186号
解体工事業(法改定により新設。元はとび・土工工事業に分類)
取得年月日 令和 2年9月 2日(新規)
有効期限 令和 7年9月 1日
- ・ 一般建設業 福岡県知事 許可(般-29)第11186号
管工事業
取得年月日 昭和24年10月26日(新規)
取得年月日 令和4年6月22日(更新)
有効期限 令和9年6月21日
- ・ 産業廃棄物処分業
北九州市長 第07620026750号
取得年月日 平成 7年 4月17日(新規)
取得年月日 令和 2年 4月17日(更新)
有効期限 令和 7年 4月16日
許可種類 破碎; がれき類、鋳さい、ガラスくず(自動車破碎物除く)
アスファルト合材の原料 がれき類(廃アスファルト)

・ 産業廃棄物収集運搬業

福岡県知事	第04000026750号
取得年月日	平成22年11月15日
取得年月日	令和 2年11月15日(更新)
有効期限	令和 7年11月14日
積替え・保管	含まない

許可種類	がれき類、ガラスくず
北九州市長	第07610026750号
取得年月日	平成2年1月5日(新規)
取得年月日	令和2年1月5日(更新)
有効期限	令和7年1月4日
積替え・保管	含む
許可種類	がれき類

・ アスファルト混合物製造・販売

11) 事業年度

10月1日 より 翌年9月30日まで

12) 取得認証制度

◆ 品質マネジメントシステム

ISO 9001 (JQA-QM9602)

登録活動範囲;土木構造物(舗装)の施工

登録日 2003年 2月28日(新規)

登録日 2023年12月 9日(更新)

有効期限 2026年12月 8日

福岡県リサイクル製品認定制度(所管;福岡県環境部)

認定リサイクル製品 (再生資源を有した路盤材)	
再生クラッシャーラン(RC-40)	再生粒度調整碎石(RM-25)
登録日	平成21年8月31日(新規)
登録日	令和 3年8月31日(更新)
有効期限	令和 6年8月31日

認定リサイクル製品 (再生加熱アスファルト混合物)	
再生粗粒度アスコン20(50)	再生粗粒度アスコン20(75)
再生密粒度アスコン20(50)	再生密粒度アスコン20(75)
再生密粒度アスコン13(50)	
登録日	令和元年9月24日(新規)
登録日	令和4年8月31日(更新)
有効期限	令和7年8月31日

認定リサイクル製品 (再生加熱アスファルト混合物)	
再生密粒度ギャップアスコン13(50)	再生開粒度アスコン13(50)
登録日	令和2年2月26日(新規)
登録日	令和5年2月27日(更新)
有効期限	令和8年2月28日

◆アスファルト混合物事前審査制度（混合所番号 8940-029）

登録日 平成16年 4月1日（新規）

登録日 令和 4年10月1日（更新）

有効期限 令和 5年 9月30日

認定混合物				
記号	混合物名称	最大粒径	突固回数	アスファルト種別
V-03Aa	粗粒度アスファルト混合物	20	75	ポリマー改質Ⅰ型
V-03Ab	粗粒度アスファルト混合物	20	75	ポリマー改質Ⅱ型
V-07A	密粒度アスファルト混合物	13	75	ポリマー改質Ⅱ型
V-12	ポーラスアスファルト混合物	13	50	ポリマー改質H型
V-17Aa	密粒度ギャップアスファルト混合物	13	75	ポリマー改質Ⅰ型
V-17Ab	密粒度ギャップアスファルト混合物	13	75	ポリマー改質Ⅱ型
R-01	再生アスファルト安定処理混合物	30	50	再生アスファルト
R-02	再生粗粒度アスファルト混合物	20	50	再生アスファルト
R-02A	再生粗粒度アスファルト混合物	20	75	再生アスファルト
R-04	再生密粒度アスファルト混合物	20	50	再生アスファルト
R-04A	再生密粒度アスファルト混合物	20	75	再生アスファルト
R-06	再生密粒度アスファルト混合物	13	50	再生アスファルト
R-09	再生密粒度ギャップアスファルト混合物	13	50	再生アスファルト
R-10	再生開粒度アスファルト混合物	13	50	再生アスファルト

◆アスファルト混合物事前審査制度(混合所番号 8940-029)

(所管;国土交通省)(次年度)

登録日 平成16年 4月1日(新規)

登録日 令和 5年10月1日(更新)

有効期限 令和 6年 9月30日

認定混合物				
記号	混合物名称	最大粒径	突固回数	アスファルト種別
V-03Aa	粗粒度アスファルト混合物	20	75	ポリマー改質Ⅰ型
V-03Ab	粗粒度アスファルト混合物	20	75	ポリマー改質Ⅱ型
V-07A	密粒度アスファルト混合物	13	75	ポリマー改質Ⅱ型
V-12	ポーラスアスファルト混合物	13	50	ポリマー改質H型
V-17Aa	密粒度ギャップアスファルト混合物	13	75	ポリマー改質Ⅰ型
V-17Ab	密粒度ギャップアスファルト混合物	13	75	ポリマー改質Ⅱ型
R-01	再生アスファルト安定処理混合物	30	50	再生アスファルト
R-02	再生粗粒度アスファルト混合物	20	50	再生アスファルト
R-02A	再生粗粒度アスファルト混合物	20	75	再生アスファルト
R-04	再生密粒度アスファルト混合物	20	50	再生アスファルト
R-04A	再生密粒度アスファルト混合物	20	75	再生アスファルト
R-06	再生密粒度アスファルト混合物	13	50	再生アスファルト
R-09	再生密粒度ギャップアスファルト混合物	13	50	再生アスファルト
R-10	再生開粒度アスファルト混合物	13	50	再生アスファルト

1-2. 事業内容

1) 事業規模

		4年度	3年度	2年度	元年度	30年度
本社	売上高(百万円)	500	497	499	701	644
	従業員数(人)	16	18	18	18	17
	事業所面積等(m2)	494				
アスファルト合材工場	売上高(百万円)	400	312	305	317	320
	従業員数(人)	5	5	6	6	6
	事業所面積等(m2)	2,955				
洞北センター	売上高(百万円)	97	86	107	88	101
	従業員数(人)	5	5	5	5	4
	事業所面積等(m2)	9,916				
黒崎センター	売上高(百万円)	110	100	111	104	97
	従業員数(人)	3	4	4	4	4
	事業所面積等(m2)	8,298				
三菱ケミカル作業所	売上高(百万円)	402	1605	1,037	565	507
	従業員数(人)	4	3	3	1	1
	事業所面積等(m2)	20				

2) 産業廃棄物処分業実績

①許可区分及び年度毎処理実績

施設	区分	細別	能力(t/日)	4年度	3年度	2年度	元年度	30年度
洞北センター	がれき類	コンクリート(t)	438	37,870	30,448	37,243	28,288	31,784
		アスファルト(t)	438	13,419	12,780	10,674	11,370	14,752
		その他(t)	438	36	821	240	172	114
	ガラスくず		438	0	0	0	0	0
	鉋さい(t)		438	1,315	1,744	1,468	984	2,720
	小計			52,640	45,793	49,625	40,814	49,370
黒崎センター	がれき類	コンクリート(t)	576	45,393	34,805	43,533	43,069	35,595
		アスファルト(t)	576	8,852	12,534	7,487	7,956	10,492
		その他(t)	576	525	421	0	538	1,190
	ガラスくず		576	0	0	0	0	0
	鉋さい(t)		576	3,450	5,694	4,343	4,192	6,431
	小計			58,220	53,454	55,363	55,755	53,708
計			110,860	99,247	104,988	96,569	103,078	

3) 産業廃棄物収集運搬業

①許可区分及び実績

年度 許可区分	4年度	3年度	2年度
がれき類	0	0	0
ガラス・陶磁器くず	0	0	0
(備考)	車輛は主として積替保管に使用するため、受託契約実績はない		

②保有車輛

車種	規格	台数
ダンプトラック	3.85 t	1
ダンプトラック	3 t	1

③積替保管施設

所在地	北九州市八幡西区洞北町3番5号
産業廃棄物の種類	がれき類
施設面積	64.00 (m ²)
保管容量	168.78 (m ³)

4) 所有設備・機械

設備又は機械名	台数	規格	用途
アスファルト合材プラント	1	1.5t/バッチ(105t/時)	アスファルト合材製造
コンクリート破砕プラント	1	破砕能力(360t/日)	再生骨材製造
コンクリート破砕プラント	1	破砕能力(576t/日)	再生骨材製造
アスファルト破砕プラント	1	破砕能力(240t/日)	アスファルト再生骨材製造
路面切削機	1	切削深さ最大15cm	路面切削(道路維持工事)
路面清掃車	1	容量2~3m ³	路面清掃
散水車	2	4 t 積	路面環境整備
モーターグレーダ	1	3.1m級	舗装工事
ロードローラー	1	10 t	舗装工事
タイヤローラー	1	8~15 t	舗装工事
振動ローラー	1	2.5~2.8 t	舗装工事
アスファルトフィニッシャ	1	2.5~5.0 m	舗装工事
場内清掃車(スイパー)	1	バケット容量 106ℓ	アスファルト合材工場内清掃用

5) 事業沿革

年 月	内 容
昭和22年5月	管・土木工事を主業種として創業者三橋虎之助により設立
昭和24年10月	福岡県知事許可業者として登録
昭和32年1月	舗装工事を主業種に追加
昭和41年9月	アスファルト合材工場を現本社敷地に建設・操業
昭和45年7月	アスファルト合材工場を能力向上のため改築・更新
平成7年4月	産業廃棄物処分業起業のため洞北センターを開設
平成20年10月	産業廃棄物処分業拡充のため黒崎センターを開設

1-3. 対象範囲

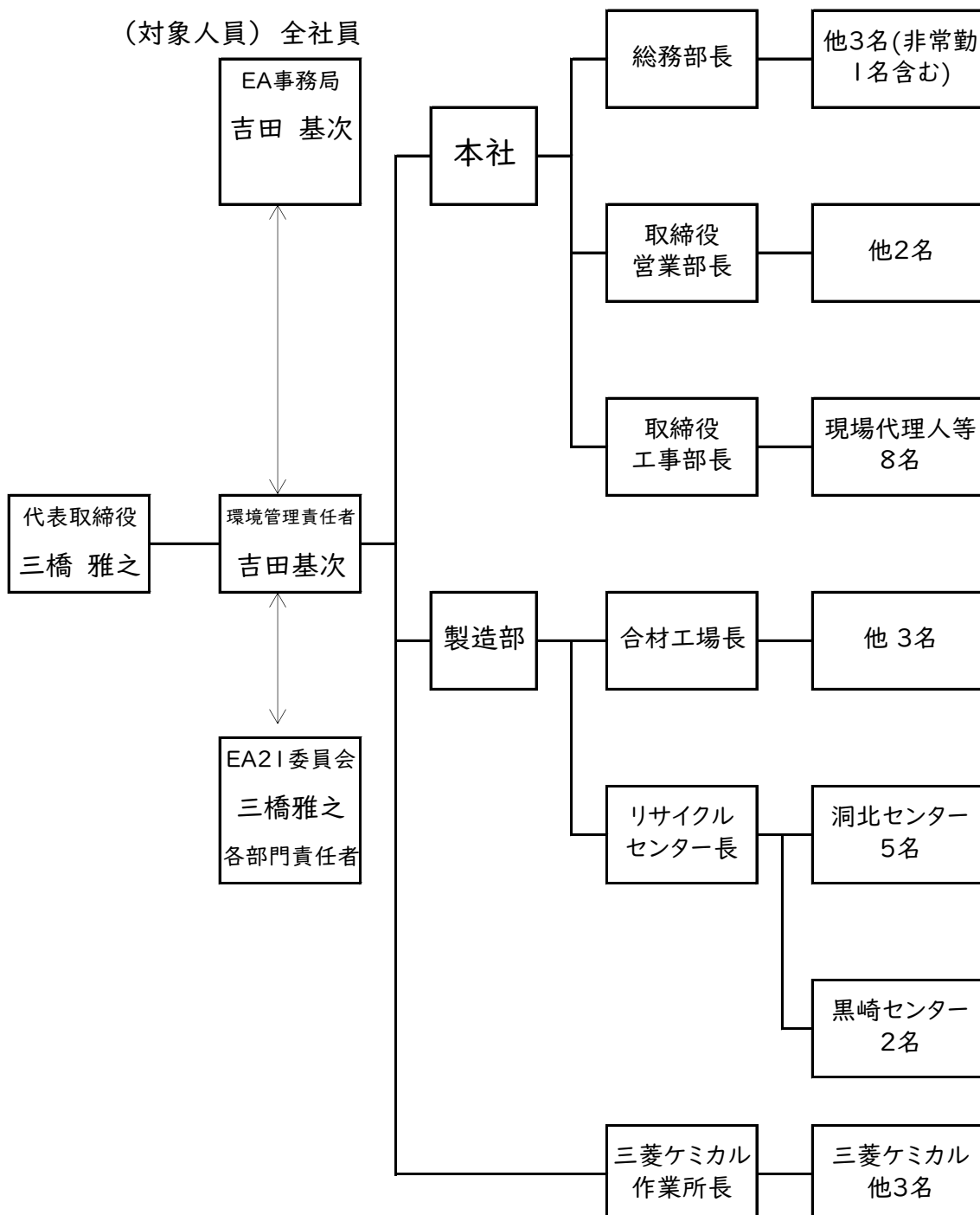
1) エコアクション21 対象範囲

(認証登録範囲) 全組織・全活動・全社員

対象組織	部門	活動内容
本社	総務部	総務・経理・労務管理全般
	事業部	特定建設業許可内における受注活動及び施工
アスファルト合材工場	製造部	アスファルト混合物の製造・販売
黒崎センター	製造部	産業廃棄物処分業許可に則った廃棄物中間処理
洞北センター	製造部	産業廃棄物処分業許可に則った廃棄物中間処理
三菱ケミカル作業所	事業部	三菱化学(株)黒崎工場内における受注活動及び施工

2) 組織図

(対象人員) 全社員



1-4.権限・役割一覧表

役職	氏名	役割・権限・責任
代表者	三橋雅之	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全活動に関する統括責任を負う。 ・環境経営方針の策定・変更を行い、全従業員へ周知する。 ・環境管理責任者を任命する。 ・EA21の構築・運用に必要な物的及び人的資源を準備する。 ・環境経営目標・活動計画書の承認。 ・環境経営レポートの承認及び社外への公表。
環境管理責任者	吉田基次	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムを構築し、環境負荷の低減を実行する。 ・環境経営目標、環境経営計画の策定。 ・部門目標の達成状況を把握し、総括管理を行う。 ・環境関連法規等のとりまとめ。 ・是正処置・予防処置の実施状況を確認する。 ・環境経営システムの運用・達成状況を代表者に報告。 ・環境活動レポートの作成。
EA21事務局		<ul style="list-style-type: none"> ・文書・記録の管理保管。 ・社内の実施記録・データの集計。 ・社内外からの情報収集、伝達。
部門責任者	総務部長 取締役営業部長 取締役工事部長 合材工場長 (洞北センター)センター長 (黒崎センター)センター長 (三菱ケミカル)作業所長	<ul style="list-style-type: none"> ・部門目標・活動計画の策定。 ・部門全員への教育訓練の実施。 ・活動結果・データの集計及び記録の作成。 ・不適合発生時の対処法の策定。 ・是正処置・予防処置の実施。
現場代理人	工事部所属技術者	<ul style="list-style-type: none"> ・施工計画時に環境関連現場目標の策定。 ・環境負荷低減のための施工方法の検討。 ・地域社会の環境保全活動への積極的協力。 ・環境関連データの収集・分析。 ・作業員・協力会社への教育訓練の実施。
全従業員		<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解に努め、目標達成への意識を共有する。 ・関係法令・規則を遵守する。 ・各環境保全活動に積極的に参加する。

1-5. 建設現場等の概要及び件数（ R4年度）

<元請工事・業務等>

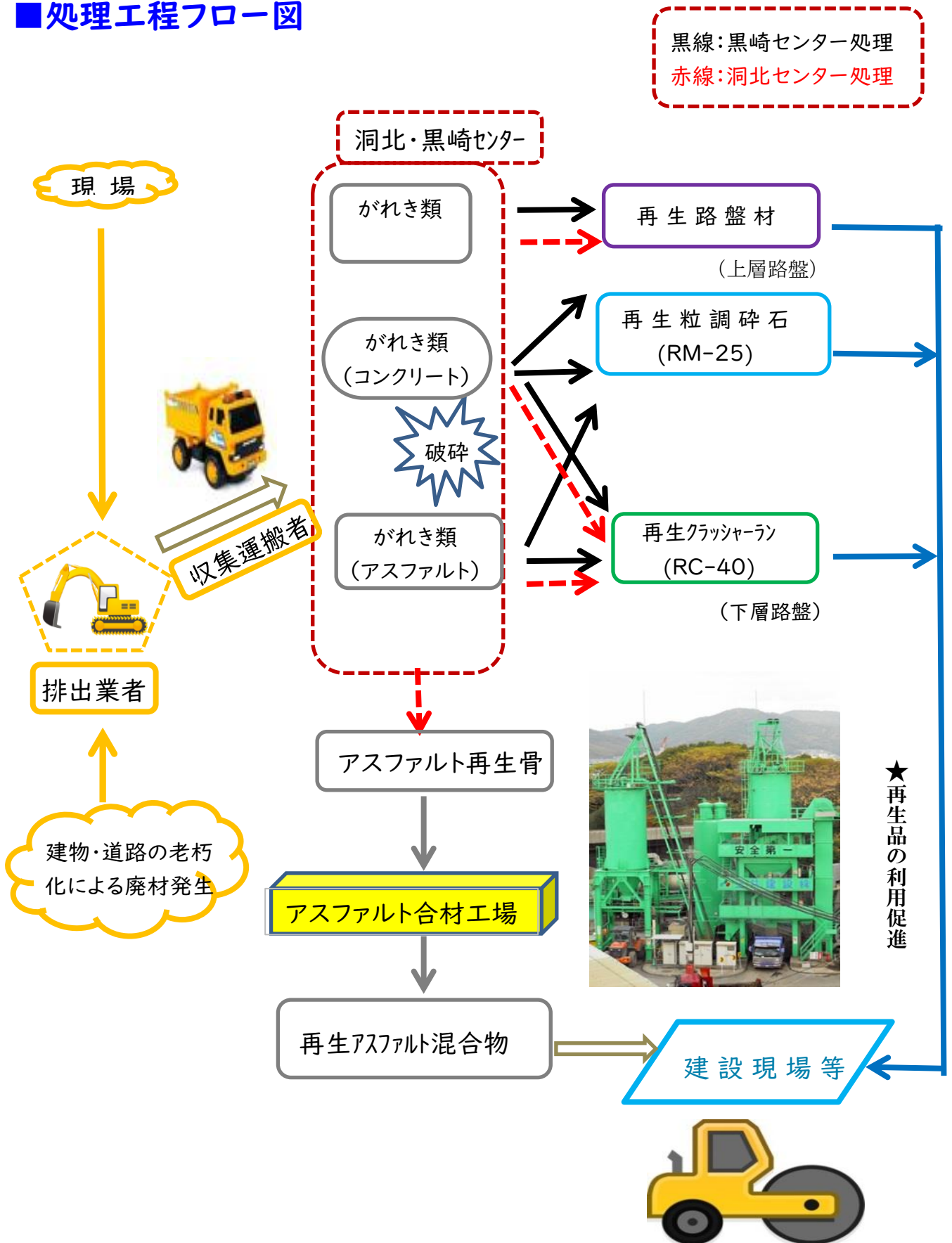
工事・業務等の名称	規模(金額)	内容	環境配慮事項 (CO ₂ 排出予想量)	使用建機等	公共・民間
県道直方芦屋線道路補修舗装工事(4工区)	20 百万	切削オーバーレイ	建設機械の騒音・振動・粉じん	切削機、アスファルトフィニッシャー、ロードローラー、バックホー	公共
陣山築地町1号線舗装補修工事	19 百万	切削オーバーレイ	建設機械の騒音・振動・粉じん	切削機、アスファルトフィニッシャー、ロードローラー、バックホー	公共
赤間大橋長寿命化工事	16 百万	橋面部車道歩道舗装修繕工事	建設機械の騒音・振動・粉じん	切削機、アスファルトフィニッシャー、ロードローラー、バックホー	公共

<下請工事・業務等>

工事・業務等の名称	規模(金額)	内容	環境配慮事項	使用建機等	公共・民間
道路改築・新設工事	24 件 79 百万	新設・改築工事における舗装	建設機械の騒音・振動・粉じん及び廃棄物処理	アスファルトフィニッシャー、ロードローラー等	公共
維持修繕工事	21 件 121 百万	道路の維持修繕における舗装	建設機械の騒音・振動・粉じん及び廃棄物処理	ロードカッターアスファルトフィニッシャー、ロードローラー等	公共
管工事	22 件 43 百万	ライフライン工事における舗装	建設機械の騒音・振動・粉じん及び廃棄物処理	アスファルトフィニッシャー、ロードローラー等	公共
施設工事	34 件 100 百万	建築外構・公園設備等	建設機械の騒音・振動・粉じん及び廃棄物処理	アスファルトフィニッシャー、ロードローラー等	公共・民間
構内工事	88 件 402 百万	新日鉄、三菱ケミカル、その他構内の舗装	建設機械の騒音・振動・粉じん及び廃棄物処理	アスファルトフィニッシャー、ロードローラー等	民間
一般民間工事	47 件 54 百万	店舗・住宅等の舗装	建設機械の騒音・振動・粉じん及び廃棄物処理	アスファルトフィニッシャー、ロードローラー等	民間

1-2-2) 産業廃棄物処分量
(添付写真参照)

■ 処理工程フロー図



洞北センター
全景



洞北センター
破碎設備



洞北センター
保管設備



黒崎センター
全景



黒崎センター
破碎設備



アスファルト
合材工場



2.環境経営方針

(基本理念)

三共建設株式会社は、創業以来の経営理念『情熱を以て優秀な技術で社会に奉仕する』に基づき、土木・舗装・環境整備工事及び産業廃棄物処理・リサイクル製品の製造供給を通じて、人に優しい街づくりに貢献します。

(行動指針)

1. 事業活動による環境への負荷を低減するために、以下の取組を実施します。
 - (1) 社員の施工技術、製造技術の向上を図り、建設資材や製品ロスの削減に努めます。
 - (2) 化石燃料・電力の使用に際し、効率化を図ることで使用量を抑制し、二酸化炭素排出量を削減します。
 - (3) 水資源の有効利用に努め、上水の使用量を削減します。
 - (4) 建設現場での建設廃棄物の管理を徹底し、不要な廃棄物の排出を抑制します。
 - (5) 化学物質を適正に管理し使用します。
 - (6) 事業用一般ゴミの削減に努めます。
2. 環境関連法令を遵守します。
3. 地域社会の環境保全活動に積極的に貢献します。
4. 環境経営方針を全従業員に周知します。
5. 社会・経済・政策等の状況を踏まえ、環境経営の継続的改善を推進します。

制定日 平成25年10月23日

改訂日 令和 2年 6月30日

三共建設株式会社

代表取締役 三橋 雅之

3-1. 環境経営目標

① 本社

環境目標		単位	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			基準年度				
1	二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	30,532	29,921	29,616	29,311	29,005
1-1	ガソリン使用量の削減	%	13,151	12,362	12,230	12,099	11,967
				6%減	7%減	8%減	9%減
2	一般事業用ゴミの削減	kg	673	592	572	572	572
3	コピー用紙使用の削減	枚	91,039	81,935	81,025	80,114	79,204
				10%減	11%減	12%減	13%減
5	周辺の清掃活動	回	12	12	12	12	12

(備考) ※電力からのCO2排出量算出は北九州パワーの平成28年度
 二酸化炭素調整後排出係数:0.128kg-CO2/kWh 使用
 PRTR法対象の化学物質は使用していないため、環境目標は設けない。

② 合材工場

環境目標		単位	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			基準年度				
1	二酸化炭素 排出量削減	総排出量	kg-CO2	870,301	861,598	861,598	861,598
		生産(予測)	t	31,000	33,000	33,000	33,000
1-1	灯油使用量の削減	%/1,000t	10,181	10,079	10,079	10,079	10,079
				1%減	1%減	1%減	1%減
1-2	電力使用量の削減	kWh	[562,244]	556,621	556,621	556,621	556,621
				3年度実測値1%減	3年度実測値1%減	3年度実測値1%減	3年度実測値1%減
1-3	軽油使用量の削減	%/1,000t	258	255	255	255	253
				1%減	1%減	1%減	2%減
1-4	LPG使用量の削減	m3	47.7	44.8	44.4	44.4	43.9
				6%減	7%減	7%減	8%減
2	上水の使用削減	m3	734	675	661	661	653
				8%減	10%減	10%減	11%減
3	分析用溶剤(SC-52S)の使用量削減	kg	28.0	24.9	24.6	24.6	24.3
				11%減	12%減	12%減	13%減
4	コピー用紙使用の削減	枚	25,799	23,993	23,735	23,219	23,219
				7%減	8%減	10%減	10%減
5	製品残等の廃棄品削減	t	4,920	4,576	4,526	4,428	4,428
				7%減	8%減	10%減	10%減
7	周辺の清掃活動	回	12	12	12	12	12

(備考1) 灯油・軽油の排出量算定については、生産量による補正を行った。

③ 洞北センター

環境目標		単位	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			基準年度				
1	二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	314,251	279,683	276,718	273,398	270,256
		取扱量(t)	112,104	118,000	121,000	124,000	124,000
1-1	軽油使用量の削減	ℓ/1,000t	1,033	981	950	950	950
				5%減	8%減	8%減	8%減
1-2	電力使用量の削減	kWh/1,000t	708	687	673	673	673
				3%減	5%減	5%減	5%減
1-3	LPG使用量の削減	m3	41.8	40.1	39.7	39.7	39.7
				4%減	5%減	5%減	5%減
2	上水使用量の削減	m3	3774	3,510	3,472	3,397	3,397
				7%減	8%減	10%減	10%減
3	一般ゴミの削減	kg	293.0	275	273	270	270
				6%減	7%減	8%減	8%減
4	コピー紙使用量の削減	枚	20,934	19,887	18,840	18,840	18,840
				5%減	10%減	10%減	10%減
6	周辺の清掃活動	回	12	12	12	12	12

(備考) PRTR法対象の化学物質は使用していないため、環境目標は設けない。

④ 黒崎センター

環境目標		単位	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			基準年度				
1	二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	272,982	256,603	253,873	251,143	251,143
		取扱量(t)	115,638	123,000	126,000	129,000	129,000
1-1	軽油使用量の削減	ℓ/1,000t	870	827	800	800	800
				5%減	8%減	8%減	8%減
1-2	電力使用量の削減	kWh/1,000t	600	570	570	570	570
				4%減	5%減	5%減	5%減
1-3	LPG使用量の削減	m3	16.0	15.4	15.2	15.2	15.2
				4%減	5%減	5%減	5%減
2-1	上水の削減	m3	2,951	2,744	2,715	2,656	2,656
				7%減	8%減	10%減	10%減
2-2	再生水の有効活用	m ³ 以上	7,052	7,546	7,122	7,122	7,122
3	一般ゴミの削減	kg	125	118	116	115	115
				6%減	7%減	8%減	8%減
4	コピー用紙使用の削減	枚	19,194	17,275	17,275	17,275	17,275
				10%減	10%減	10%減	10%減
6	周辺の清掃活動	回	12	12	12	12	12

(備考) PRTR法対象の化学物質は使用していないため、環境目標は設けない。

(備考2) 【再生水の有効活用】については、散水車減車のため、令和5年度目標より変更する。

⑤ 三菱ケミカル作業所

環境目標		単位	令和2年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			基準年度				
1	二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	2,517	2,390	2,390	2,390	2,390
1-1	ガソリン使用量の削減	ℓ	1,087	1,044	1,033	1,033	1,033
				4%減	5%減	5%減	5%減
1-2	電力使用量の削減	kWh		電気は共用使用により個別使用量不明のため、電気使用量削減の数値目標を掲げず、節電活動に取り組む。			
2	水道使用量の削減	t		水道は共用使用により個別使用量不明のため、水道使用量削減の数値目標を掲げず、節水活動に取り組む。			
3	コピー紙使用量の削減	枚	19,854	17,870	17,870	17,870	17,870
				10%減	10%減	10%減	10%減

(備考) PRTR法対象の化学物質は使用していないため、環境目標は設けない。

3-2. 環境経営計画及び取組・評価

① 本社

目標	取組事項	実施状況		評価	今後の取組
		3年度	4年度		
電気使用量の削減	エアコン設定温度の適正実施	●	●	● 今後も継続していく	継続
	不使用スペースの消灯	●	●		定着
	長時間不在時のパソコン電源OFF	●	●		定着
	社屋の断熱性能の整備	×	×		継続
ガソリン使用量の削減	適切な車輛点検整備	●	●	● 今後も継続していく	継続
	エコドライブの推奨・指導②早めのアクセルオフの実施	●	●		継続
	本社・プラント出庫時の左折オンリーによる事故率低減	●	●		継続
水使用量の削減	トイレ・炊事場の蛇口のON・OFF	●	●	● 今後も継続していく	継続
	社有車以外の洗車自粛	●	●		継続
	洗濯機の効果的使用	●	●		継続
一般ゴミの排出削減	私物の投棄自粛	●	●	● 今後も継続していく	定着
	日用品は詰替対応で空容器の減量化	●	●		継続
	購入物品の梱包の簡素化	●	●		継続
コピー紙使用量の削減	社内文書の電子化の推進	●	●	● 今後も継続していく	継続
	目的により裏紙コピーの推奨	●	●		継続
	不必要な印刷の低減	○	●		継続
作業環境の整備	事務所の清掃及び整理整頓	●	●	● 週1回確実に実施	継続
	周辺の定期的清掃活動	●	●		継続

(備考) ○;取組を実施 ●;実施後、成果が得られた ×;実施したが成果を得るに至っていない。又は実施できなかった。

② 合材工場

目標	取組事項	実施状況		評価	今後の取組
		3年度	4年度		
灯油使用量の削減	搬入材料(砂)の含水量対策(搬入日設定)	○	×	○ 今後も継続していく	継続
	出荷温度の目標上限を10℃から7℃以内に変更	●	●		継続
	加熱ユニットの保全・点検・整備	●	●		継続
	終了時のホットビン残量を1日3t以内を目標にする	○	○		継続
電気使用量の削減	アスファルトタンクの加熱温度適正化	●	●	● 今後も継続していく	継続
	試運転等の合理化	○	●		継続
	事務所エアコンの温度設定適正化	●	○		継続
軽油使用量削減	ホイールローダの省エネ運転技術の習得	●	●	● 今後も継続していく	定着
	重機の始業・終業点検の徹底	●	●		定着
	車両移動の際の加速時の低負荷化	●	○		継続
LPG使用量削減	冬季における給水管の凍結対策実施	○	●	● 今後も継続していく	継続
	シャワー設備の使用効率化	●	●		定着
水使用量の削減	蛇口の完全閉の確認強化	●	●	● 今後も継続していく	継続
	場内山水は出しっぱなしと過度な散水の禁止	○	●		継続
分析用溶剤の使用量削減	環境安全データシートに従った適正使用	●	●	● 今後も継続していく	継続
	循環使用による使用量削減	●	●		継続
一般ゴミの排出削減	私物の投棄自粛	●	●	● 今後も継続していく	継続
コピー紙使用量の削減	目的により裏紙コピーの推奨	●	●	● 今後も継続していく	継続
	文書作成時の画面チェックを徹底	○	●		継続
作業環境の整備	構内の清掃及び片付け	○	●	● 今後も継続していく	継続
	油分離槽の点検・保全	●	●		定着

(備考) ○;取組を実施 ●;実施後、成果が得られた ×;実施したが成果を得るに至っていない。又は実施できなかった。

③ 洞北センター

目標	取組事項	実施状況		評価	今後の取組	
		3年度	4年度			
軽油使用量の削減	作業休止中のエンジン停止を徹底	○	●	○	教育方法の見直しを行う事	継続
	エンジンに負荷のかからない省エネ運転技術の習得	○	○			継続
	複数重機作業の組み合わせの効率化	○	○			継続
	始業・終業点検の徹底	●	●			継続
電気使用量の削減	選別・小割の徹底による破砕機の負荷低減	○	○			継続
水使用量の削減	場内散水の合理化	○	×	○	さらに継続が必要	継続
一般ごみの排出削減	日用品は詰替対応で空容器の減量化	●	●	●	今後も継続していく	継続
コピー紙使用量の削減	目的により裏紙コピーの推奨	●	●	●	今後も継続していく	継続
	文書作成時の画面チェックを徹底	●	●			継続
作業環境の整備	構内の清掃及び片付け	●	●	●	今後も継続していく	継続
	油分離槽の点検・保全	●	●			継続
	周辺の定期的清掃活動	●	●			継続

(備考) ○;取組を実施 ●;実施後、成果が得られた ×;実施したが成果を得るに至っていない。又は実施できなかった。

④ 黒崎センター

目標	取組事項	実施状況		評価	今後の取組	
		3年度	4年度			
軽油使用量の削減	作業休止中のエンジン停止を徹底	●	●	●	今後も継続していく	定着
	エンジンに負荷の係らない省エネ運転技術の習得	○	●			継続
	始業・終業点検の徹底	●	●			定着
電力使用量の削減	運転休止中の電源OFF	●	●	●	今後も継続していく	定着
	選別・小割の徹底による破砕機の負荷低減	○	●			継続
	事務所エアコンの温度設定適正化	●	●			定着
水使用量の削減	場内散水への再生水の積極的活用	●	○	○	今後も継続していく	定着
一般ごみの排出削減	日用品は詰替対応で空容器の減量化	●	●		今後も継続していく	継続
コピー紙使用量の削減	目的により裏紙コピーの推奨	○	●	●	今後も継続していく	定着
	文書作成時の画面チェックを徹底	●	●			継続
作業環境の整備	構内の清掃及び片付け	●	○	○	今後も継続していく	継続
	油分離槽の点検・保全	○	○			継続
	周辺の定期的清掃活動	●	●			継続

(備考) ○;取組を実施 ●;実施後、成果が得られた ×;実施したが成果を得るに至っていない。又は実施できなかった。

⑤ 三菱ケミカル作業所

目標	取組事項	実施状況		評価	今後の取組
		3年度	4年度		
電気使用量の削減	エアコンの設定温度の適正実施	●	●	●	継続
	パソコンのスリープモードの有効活用	●	●		継続
ガソリン使用量の削減	適切な車輛点検整備	●	●	●	継続
	エコドライブの実践	●	●		今後も継続していく
	不要積載物の排除と減量化	●	●		継続
水使用量の削減	トイレ・炊事場の蛇口のON・OFF徹底	●	●	●	継続
コピー紙使用量の削減	社内文書の電子化により回覧書類減量化	●	●	●	定着
	目的により裏紙コピーの推奨	●	●		定着しつつある
	文書作成時の画面チェックを徹底	●	●		継続
作業環境の整備	事務所の清掃及び片付け	●	●	●	継続

(備考) ○;取組を実施 ●;実施後、成果が得られた ×;実施したが成果を得るに至っていない。又は実施できなかった。

3-3.環境経営目標及び中期目標、当年度の環境目標対実績と判定、
次年度の環境目標 取りまとめ表

本社 77期

事業年度 10月1日~9月30日

項目	単位	基準値 令和2年度 実績値	年度初めの策定				
			令和4年度			令和5年度 目標	令和6年度 目標
			目標	実績	判定		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	30,532	29,921	28,243	○	29,616	29,311
ガソリン使用量の削減	ℓ	13,151	12,362	12,165	○	12,230	12,099
一般事業ごみの削減	kg	673	592	542	○	572	572
コピー用紙使用量の削減	枚	91,039	81,935	91,320	×	81,025	80,114
周辺の清掃活動	回	12	12	12	○	12	12

・一般ゴミは合材工場との合計

※電力からのCO2排出量算出は北九州パワーの平成28年度二酸化炭素調整後排出係数：
0.128kg-CO2/kWh 使用

合材工場 77期

事業年度 10月1日~9月30日

項目	単位	基準値 令和2年度 実績値	年度初めの策定				
			令和4年度			令和5年度 目標	令和6年度 目標
			目標	実績	判定		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	870,301	861,598	1,023,757	×	861,598	861,598
① 灯油使用量の削減	ℓ/1,000t	10,181	10,079	10,449	×	10,079	10,079
② 電気使用量の削減	kWh	562,244	556,621	554,839	○	556,621	556,621
③ 軽油使用量の削減	ℓ/1,000t	258	255	226	○	255	255
LPG使用量の削減	m ³	47.7	44.8	64.2	×	44.4	44.4
上水使用量の削減	m ³	734.0	675	1,009	×	661	661
分析用溶剤(SC-52S)使用量の削減	kg	28.0	24.9	19.6	○	24.6	24.6
製品残等の廃棄物削減	t	4,920	4,576	5,608	×	4,526	4,428
コピー用紙使用量の削減	枚	25,799	23,993	31,013	×	23,735	23,219
周辺の清掃活動	回	12	12	12	○	12	12

※見直しの結果、電気使用量削減項目については令和3年度実績値を基準値とした。(基準値562,244kWh)

※見直しの結果、灯油使用量削減目標については次年度より基準値1%減とした。

3-3. 環境経営目標及び中期目標、当年度の環境目標対実績と判定、

次年度の環境目標 取りまとめ表

洞北センター

77期

事業年度 10月1日～9月30日

項目	単位	基準値 令和2年度 実績値	年度初めの策定				
			令和4年度			令和5年 度 目標	令和6年 度 目標
			目標	実績	判定		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	314,251	279,693	314,217	×	276,718	273,398
① 電気使用量の削減	kWh/1,000t	708	687	623	○	673	673
② 軽油使用量の削減	ℓ/1,000t	1,033	981	978	○	950	950
LPG使用量の削減	m ³	41.8	40.1	12.0	○	39.7	39.7
上水使用量の削減	m ³	3,774	3,510	1,907	○	3,472	3,397
一般事業ごみの削減	kg	293	275	113	○	273	270
コピー用紙使用量の削減	枚	20,934	19,877	16,545	○	18,840	18,840
周辺の清掃活動	回	12	12	12	○	12	12

黒崎センター

77期

事業年度 10月1日～9月30日

項目	単位	基準値 令和2年度 実績値	年度初めの策定				
			令和4年度			令和5年 度 目標	令和6年 度 目標
			目標	実績	判定		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	272,982	256,603	267,074	×	253,873	251,143
① 電気使用量の削減	kWh/1,000t	600	570	550	○	570	570
② 軽油使用量の削減	ℓ/1,000t	870	827	859	×	800	800
LPG使用量の削減	m ³	16.0	15.4	10.0	○	15.2	15.2
上水使用量の削減	m ³	2,951	2,744	1,493	○	2,715	2,656
再生水の有効活用	m ³ 以上	7,052.0	7,546	7,124	×	7,122	7,122
一般事業ごみの削減	kg	125	118	109	○	116	115
コピー用紙使用量の削減	枚	19,194	17,275	16,899	○	17,275	17,275
周辺の清掃活動	回	12	12	12	○	12	12

三菱ケミカル作業所 77期

事業年度 10月1日～9月30日

項目	単位	基準値 令和2年度 実績値	年度初めの策定				
			令和4年度			令和5年 度 目標	令和6年 度 目標
			目標	実績	判定		
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	2,517	2,390	2,858	×	2,390	2,390
① ガソリン使用量の削減	ℓ	1,085	1,044	1,231	×	1,033	1,033
コピー用紙使用量の削減	枚	19,854	17,870	15,082	○	17,870	17,870

・電気・水道については供用のため、個別使用量不明。

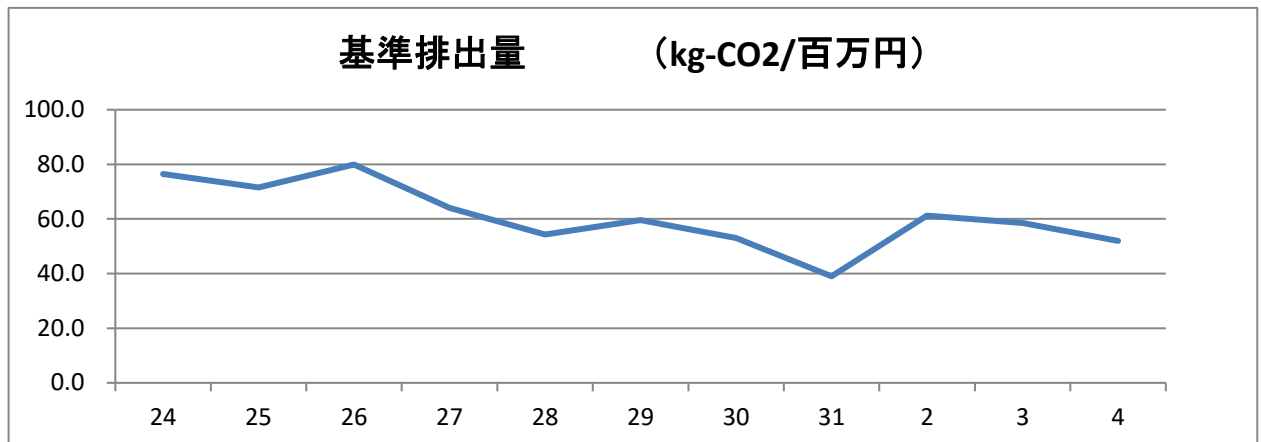
・黒崎センターの【再生水の有効活用】については、散水車減車につき、令和5年度以降の目標を変更する。

3-5. 温室効果ガス排出量の推移

※当社は、各事業所毎に事業内容が異なるため個別に排出量を取りまとめた。

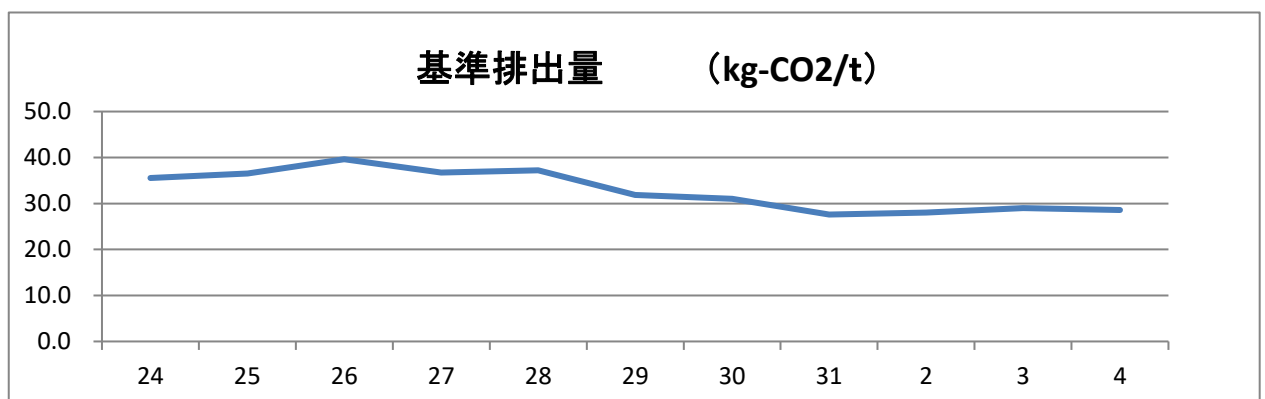
①本社

項目 \ 年度	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4
総排出量(kg-CO ₂)	57,808	47,102	42,758	36,000	40,436	36,232	34,052	27,369	30,532	29,054	28,243
売上高(百万円)	756	658	535	562	744	608	644	701	499	497	543
基準排出量(kg-CO ₂ /百万円)	76.5	71.6	79.9	64.1	54.3	59.6	53.0	39.0	61.2	58.5	52.0



②合材工場

項目 \ 年度	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4
総排出量(kg-CO ₂)	1,522,056	1,328,381	1,260,052	1,170,524	1,350,457	1,171,829	945,427	888,310	870,301	908,571	1,023,757
出荷量(t)	42,777	36,393	31,796	31,851	36,261	36,767	30,472	32,216	31,039	31,323	35,794
基準排出量(kg-CO ₂ /t)	35.6	36.5	39.6	36.7	37.2	31.9	31.0	27.6	28.0	29.0	28.6



※環境管理責任者からひと言
本社

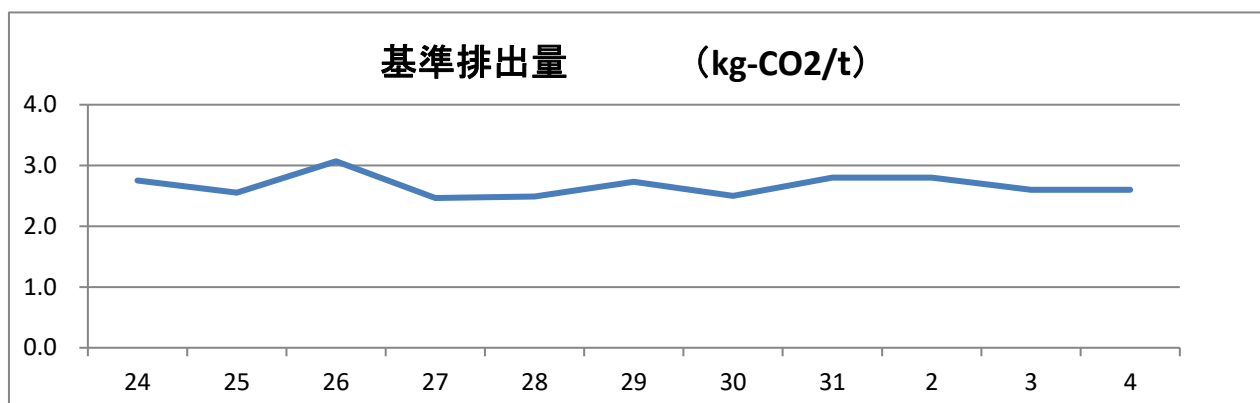
- ・温室効果ガス排出対象はガソリン使用のみ。(電力使用は合材工場との合算)
- ・ガソリン使用量の削減目標-6%を達成、原単位での前年度対比でもCO₂排出量は減少しました。エコドライブ(ふんわりスタートや早めのアクセルオフ)が定着してきたと思われます。今後も省エネ運転を推奨していきます。

合材工場

- ・年間CO₂排出量について、年間出荷量が前年度比約15%アップしたことが排出量増大の起因と思われます。
- ・基準排出量(kg-CO₂)についてはここ数年28kg辺りを推移しており、出荷温度の上げ過ぎ抑制による灯油使用量削減の効果が認められない。今後は入荷骨材の含水比対策(特にアスファルト再生骨材)に重点を置き、生産元の洞北センターと製造工程について協議していきます。
- ・電力と軽油の使用量は目標を達成しており、特に軽油に関しては重機のエコ運転等、職員各々の意識改善が実を結んだと思います。

③洞北センター

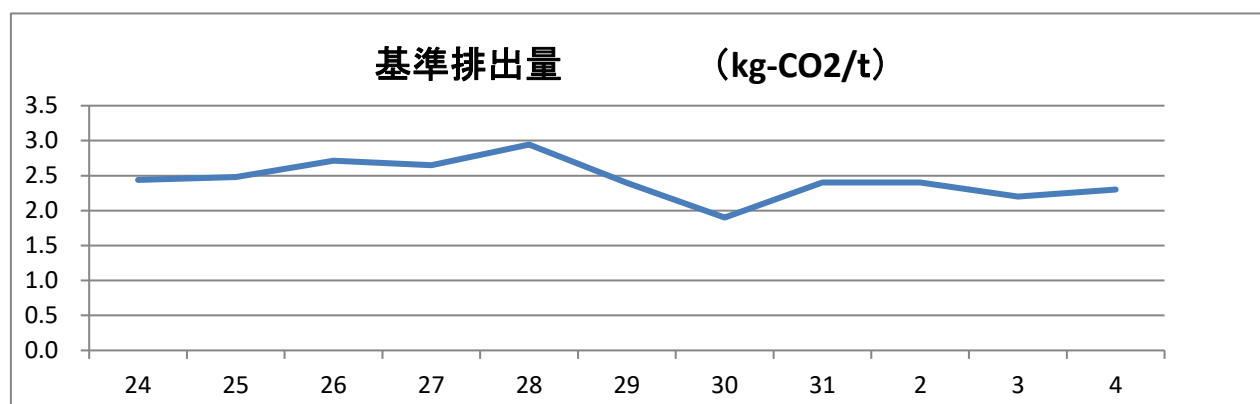
年度	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4
総排出量 (kg-CO2)	284,694	293,059	283,565	244,173	297,548	314,357	286,513	256,608	314,251	255,910	314,217
取扱量 (t)	103,497	114,715	92,390	99,078	119,532	115,068	112,861	91,592	112,103	99,967	118,711
基準排出量 (kg-CO2/t)	2.8	2.6	3.1	2.5	2.5	2.7	2.5	2.8	2.8	2.6	2.6



(取扱量(t)) = (受入量(t)) + (出荷量(t))

④黒崎センター

年度	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4
総排出量 (kg-CO2)	267,695	275,541	253,529	191,878	263,312	229,162	214,926	268,680	272,982	233,893	267,074
取扱量 (t)	109,868	111,085	93,467	72,386	89,438	95,563	116,022	111,696	115,637	104,765	116,768
基準排出量 (kg-CO2/t)	2.4	2.5	2.7	2.7	2.9	2.4	1.9	2.4	2.4	2.2	2.3



(取扱量(t)) = (受入量(t)) + (出荷量(t))

※環境管理責任者からひと言
(洞北センター)

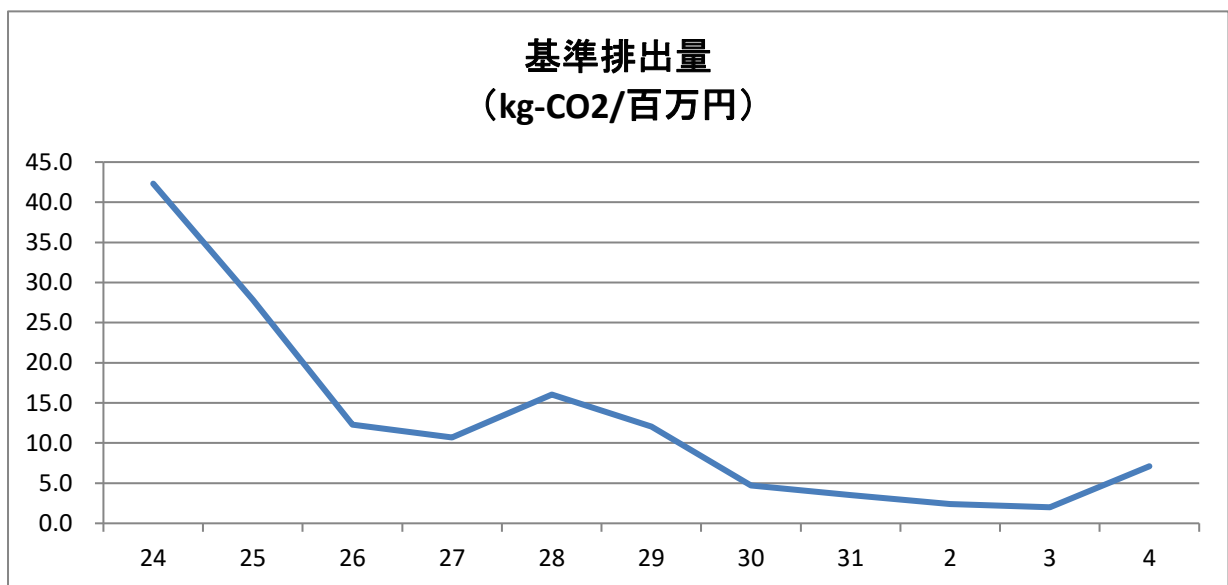
- ・CO2削減目標は未達成だったが、基準排出量では例年とほぼ横ばいでした。
- ・個別の主だった管理目標である、電力、軽油の使用量の削減目標が達成。その他、場内の粉じん飛散防止に使用する上水道使用量についても大きく削減できており、再生水の有効利用ができていていると思われます。

(黒崎センター)

- ・CO2削減目標は未達成だったが、基準排出量では例年とほぼ横ばい(微増)でした。
- ・軽油使用量が目標未達成となったが、取扱量1,000tあたりでは基準年度実績値比で削減できました。
- ・再生水の有効活用については、散水車を減車したため、来期より目標を下方修正します。

⑤三菱ケミカル作業所

項目 \ 年度	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4
総排出量 (kg-CO2)	3,893	2,089	2,004	2,430	2,438	2,173	2,408	1,963	2,517	3,266	2,858
売上高(百万円)	92	75	163	227	152	180	508	565	1,037	1,605	402
基準排出量 (kg-CO2/百万円)	42.3	27.9	12.3	10.7	16.0	12.1	4.7	3.5	2.4	2.0	7.1

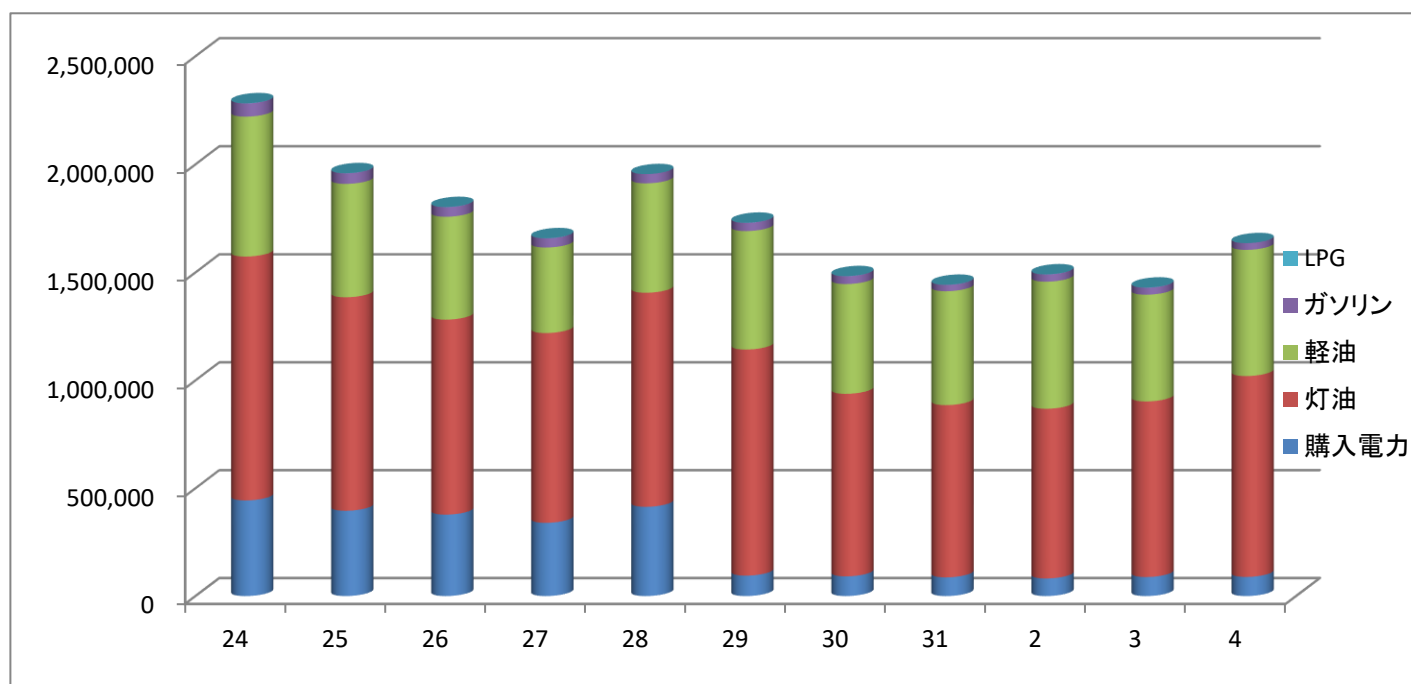


※環境管理責任者からひと言

- ・引き続き注視し、取り組みを実施していきます。

⑥ エネルギー毎のCO2排出量推移 (kg-CO2)

年度 種別	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4
購入電力	443,500	395,500	377,500	339,500	413,800	94,700	91,414	86,690	81,472	88,237	88,703
灯油	1,130,000	989,600	904,100	879,900	992,200	1,048,300	846,217	798,664	786,880	814,056	931,337
軽油	647,300	524,600	476,000	395,900	506,200	548,300	508,655	527,715	588,917	494,798	584,371
ガソリン	61,400	49,200	44,800	42,700	42,900	38,400	36,459	29,590	33,596	32,622	31,283
LPG	800	600	600	600	300	600	580	522	585	692	455



※環境管理責任者からひとこと

- ・直近の5年で排出量が最も多くなっています。この理由は、合材の出荷量の増大に伴う燃料(灯油)使用量と、両りサイクルセンターの取扱い量増大による重機燃料(軽油)の使用量が増えたことによるものです。
- ・排出量割合としては、降順で、灯油(56.9%)、軽油(35.7%)となり、この2項目で全体の約92%以上を占めています。この2項目の排出量削減を柱として、今後も継続して取り組んでいきます。

4. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規（廃掃法、建設リサイクル法、騒音・振動規制法、フロン排出抑制法他）の遵守状況を確認した結果 違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘及び利害関係者との訴訟等も発生していません。

5. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

・代表者による全体の評価

全体的には、目標値への取り組み方が安定した状態になっていると考えております。

ここ数年の目標値の推移は設備更新や出荷量作業量(業績)の変動による影響が大きいようです。その為、きめ細やかな目標設定や取組・評価の詳細な検討・考察を進めていこうと考えます。

また、社屋断熱性能の向上に取り組むこととし調査を開始しました。CO2の削減についても廃コンクリートを処理する過程で固定化できるCO2量の数値化の研究に着手したところであり、全社的にコアな部分にも着目し、成果を上げていけるよう取組を強化します。

・見直しの結果と代表者の指示内容

環境経営方針	見直しの必要性	(有り <input type="checkbox"/> 無し <input checked="" type="checkbox"/>)
環境経営目標及び環境経営計画	見直しの必要性	(有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/>)
実施体制	見直しの必要性	(有り <input type="checkbox"/> 無し <input checked="" type="checkbox"/>)

・指示内容

黒崎センターの環境経営目標のうち、【再生水の有効活用】について、散水車の減車につき、目標達成が困難であると判断し、見直しするよう指示した。

その結果、来期以降から、当初の目標値7,546㎡以上(基準年度の7%増)から、7,122㎡以上(基準年度の1%増)に減じることを了承した。